



どんな学校？

課程：全日制 総合学科

みなさんは、「自分の未来」を

どのように思い描いていますか？

自分を大切にし他者を理解し相互を高めあう能力、社会の一員として責任に基づいて行動する能力、選択や体験学習を通して「生きる力」を育むことをめざしています。

共通必修科目や系列選択科目に加えて「未来探索」の授業をとおして、自分や社会を知り、様々な分野で自分の目標に向かって「これからの社会に必要な資質・能力」を育成します。



どんなメンバー？

学 校

外国人生徒支援委員会

地 域

- ・ 外部機関 (NPO法人多文化共生教育ネットワークかながわ (ME-net) 等)
- ・ 多文化教育コーディネーター
- ・ 日本語指導員



どんな団体？

外国人生徒支援委員会

各年次や関連グループ等から選出された教職員を中心に構成しています。

鶴見総合高校のすべての生徒が、学校・地域社会の中で、人権を尊重し、国籍や出身地にとらわれることなく、互いに違いを認め合いながら学び、それにより共に成長できる環境を整えることをめざしています。



はじめたきっかけは？

鶴見総合高校は平成16年度に再編・統合(寛政・平安)し、総合学科として設置されました。

再編・統合前から実施してきた外国につながるのある生徒に対する支援を引継ぎ、多文化共生教育の推進に向けて、全国的にも先進的な取組を実践するとともに、総合学科の基本方針であるキャリア教育に取り組んできました。

平成18年度からは組織的に支援するため、支援組織「外国人生徒支援委員会」を設置し、外部機関・地域と連携して生徒支援を行っています。

現在は、学校運営協議会の委員である多文化理解に関する専門家の助言を学校経営にいかすとともに、外国人生徒支援部会と連携し、外国につながるのある生徒を支援しています。

【支援内容】

<学校選びから入学前>

- ・ 通訳つきの学校説明会の開催
- ・ 日本語能力の把握
- ・ 新入生個別ガイダンス

<入学後>

- ・ 学習支援
日本語学習、母語学習、個別支援授業の実施、多文化教室の実施
- ・ 進路支援
日本語能力試験対応、在留カードに関する説明会、卒業生講話の実施
- ・ 家庭・保護者支援
ルビ付きや翻訳した資料の配付、通訳手配
- <その他>
 - ・ 教職員等への研修会や情報交換会の実施
 - ・ 多文化交流委員会での生徒の活動

神奈川県教育委員会教育局指導部
高校教育課高校教育企画グループ

この冊子はホームページにも記載しています →



すくコミ!

～コミュニティ・スクール事例集～



学校名

鶴見総合高等学校

活動名

外国人生徒支援
委員会の取組

取組紹介

取組内容

内 容	
1	「外国人生徒支援委員会」の設置
2	外部機関との連携
3	取組の深化
4	成果と今後の展望

1 HOP

平成18年度～

外国につながるのある生徒の支援を組織的に行うため、各年次や関連グループ等から選出された教職員を中心に構成した「外国人生徒支援委員会」を設置しました。

2 STEP

平成19年度～

県教育委員会とNPO法人多文化共生教育ネットワークかながわ(ME-net)との協同事業により、多文化教育コーディネーターの派遣が始まり、多文化教育コーディネーターによる生徒や教員への聞き取りによる、校内での「理解の共通化」を図る取組を開始しました。

また、平成24年度には「多文化共生教育指針」を制定し、めざす姿を明示しました(令和2年度改訂)。

3 JUMP

令和6年度～

多文化教育コーディネーターや日本語指導員を中心に放課後に実施してきた「学習サポート」を「多文化教室」と改めました。

従来から行ってきた学習支援や生活・進路に関わる相談対応に加えて、多文化共生を進めるために、外国につながるのある生徒同士や日本人の生徒との交流の機会として、「ハロウィンパーティー」や「クリスマスパーティー」などの交流イベントも始めました。



4 FLY

イベントをとおして、外国につながるのある生徒同士や日本人の生徒との交流の機会を設けることで、多文化への理解が一層深まりました。

「多文化共生教育指針」で示された、すべての生徒が、学校・地域社会の中で、人権を尊重し、互いに違いを認め合いながら学び、ともに成長できる環境を整えていくため、学校全体を巻き込んで、互いを知る機会が設けられないかと考えています。

生徒の感想

- ・ウェルカムパーティで新しい友達をつくることができました。
- ・授業で分からないところをやさしい日本語で教えてくれるから助かります。
- ・勉強だけでなく、生活や恋愛相談もします。いろいろな話ができるので楽しいです。

地域の感想

これまでの外国につながるのある生徒に対する支援を継続するとともに、さらに日本人の生徒との交流が活発になり、多文化共生教育が推進されることを期待しています。

先生の思い

すべての生徒が、互いに違いを認め合いながら学び、成長できる環境を整えたい。